

令和5年度第2回さいたま市行財政シンカ推進会議 議事概要

日時

令和5年12月27日（水）15時～16時30分

開催場所

さいたま市役所 4階 政策会議室
（オンライン併用）

出席者

（委員）

田矢委員長、秋山委員、伊藤委員、高橋委員、沼尾委員、吉浦委員
（さいたま市）

市長、高橋副市長、小川副市長ほか

次第

・報告事項

職員の「働きがい」のヒアリング結果

パイロットオフィスでの実証実験

・議題

市民サービスの変化を職員の働き方の変化につなげるために

議事要旨

・報告事項

「職員の「働きがい」のヒアリング結果」、「パイロットオフィスでの実証実験」

- ・ 職員の意識の把握は Well-being 経営につながる取組であり、経年の職員の意識調査やヒアリングの実施はよいこと。
- ・ 今回設置したパイロットオフィスのような執務環境だと、職員の Well-being が向上し、仕事がかどることもあるのではないかと。
- ・ 執務環境について、動作の短縮や相手との目線の一致の観点から、立って仕事ができるスペースを追加してみてもいいのではないかと。
- ・ フリーアドレスの適否は、プロジェクトごとに動いているだとか、リモートワークが定着しているだとか、いろいろな要素がある。フリーアドレスにこだわらず、職員にとって快適な職場環境であることがよい。
- ・ 本会議の運営も含め、ペーパーレスが着実に進んでいる印象。モニターなどペーパーレスに必要な設備は必要な投資だと思って取り組んでもらいたい。
- ・ どのように働き方を変えたら働きやすくなるのかということについて、他自治体や民間企業なども参考に議論し、進めてほしい。

・議題「市民サービスの変化を職員の働き方の変化につなげるために」

- ・ 行政のデジタル化にあたっては、手続数など数値目標にとらわれるのではなく、サービスのあり方自体が良くなったと市民に感じてもらえるよう、工夫、アピールしてほしい。また、デジタル化により生まれた時間等を生かして、職員から市民に歩み寄ってもらいたい。
- ・ デジタル化を進めても、人と人との関わりが途切れないようにしてもらえるとよいのではないかと。
- ・ コロナ禍においては、義務感で業務にあたり疲弊してしまうこともあった。自分自身が満たされていると、人への思いやりが生まれるという研究結果もあるので、セルフケア（自分自身を整える）や職場の体制を整えたいうえで、市民サービスに目を向ける方法は理にかなっている。
- ・ バックオフィスのDX化と業務プロセスの見直しが職員の利便性には大きく影響するので、オフィス改革ともあわせて戦略的に進められるとよいのではないかと。また、行政のデジタル化にあたっては、オープンデータ化も検討してみたらよいのではないかと。
- ・ オンラインによる申請にあたっては、ウェブベースで入力する形式で進めたらよいのではないかと。
- ・ デジタル化は人の手が介在しない形で処理ができるように進めてほしい。
- ・ デジタル化を進める一方、デジタル化では対応できない部分も支援するという発想は自治体にとっては必要であり、非常に良い。